

五戸総合病院での研修を終えて

令和6年度5月 研修医

青森市民病院 初期研修医 守屋拓実

青森市民病院研修プログラム地域医療研修として1か月の間五戸総合病院で研修を受けさせていただきありがとうございました。

本研修では内科外来での診療、病棟業務、手術等々およそ医師がやる業務は書類仕事を除けば大体やらせていただけたと思います。また訪問診療は青森市民病院では経験できないものであり非常に勉強になりました。

外来業務は初めての経験であり、当初は非常に戸惑いました。全く知らない患者さんを以前のカルテ記載と処方薬、血液データなどからある程度評価しつつ患者さんと対面し診察をするという行為の手間の多さに加え、沢山の患者さんを待たせないために効率よく診察を進めることの難しさは実際にやってみて初めて理解できるものでした。また内科処方の内容変更や容量変更、新規薬剤の選択などに直面して自分の知識の浅さを実感しました。訪問診療では家庭や施設で介護を受けている患者さんのもとへ行き診察を行いました想像以上に家族の努力あって初めて自宅での療養が可能になっていることを知りました。そのような背景を考えると訪問診療は必要だし、地域に根差した病院としての信頼があってこそなのだと思います。

このような研修を通して驚いたことの一つとして、安藤病院長が消化器外科領域のみならず付属器切除や麻酔管理を行っていたり、内視鏡を行っていたりとあらゆる診療に関与しているなということです。医療の専門分化が進んでいても、地域の総合病院で様々な疾患に対応しなければならないとしても医師の数が少ないと、自ずと外科のスペシャリストでありながらジェネラリスト的面も持ち合わせている必要があるのだなと感じました。

今回の実習に際して昨年度やそれ以前のプログラムで五戸総合病院にお世話になった諸先輩方に大変忙しい病院である、と伺っていたためかなり緊張しながらの研修開始となりました。ですが皆さんに非常に優しくご指導いただいたおかげでその緊張も薄れ、有意義な1か月を過ごすことができました。今回の研修を糧に医師として一回り成長出来ればと思います。

最後になりましたが未熟な研修医を快く受け入れてくださった安藤病院長をはじめとする先生方、コメディカルの皆さま、本当にありがとうございました。